

2026 年度 入学者選抜試験問題

外国人留学生 2 期

小 論 文

注意

1. 開始の指示があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. 机上には、受験票、黒鉛筆、消しゴム、時計以外のものを置かないでください。
3. 受験票と机の上に貼ってある受験番号が同じかどうか確認し、問題冊子と解答用紙のすべてに受験番号と氏名を記入してください。
4. 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
5. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
6. 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行動が見受けられた場合は、監督者が注意をします。
 - ③ 不正行為を行った場合は、直ちに受験を取りやめさせます。
7. 試験終了後、この問題冊子を持ち帰ってください。

受 験 番 号	氏 名

次の〔課題文 A〕〔課題文 B〕のうちどちらか一つを選びなさい。

選んだ課題文の設問 (1) (2) について、それぞれの答えを該当する解答用紙に記入しなさい。

[課題文 A]

以下の文章は、生成 AI の活用をめぐる新聞社説である。よく読んで次の 2 問に答えよ。

(1) 筆者の問題提起が伝わるように、文章全体を 400 字程度で要約せよ。

(2) 生成 AI との関わり方について、これから大学で学ぶあなたはどのように考えているか。 400 字程度で記せ。

「AI 時代と向き合う リスクふまえ熟識に生かす」

調べごとをする。手紙を下書きする。文書を翻訳する。「問い」を発すれば、画面の向こうに誰かがいるかのように、なめらかな言葉で「答え」が返る。そんな生成 AI（人工知能）が、暮らしや仕事に急速に浸透している。

新卒採用面接に生成 AI を導入する企業がある。AI の質問に学生がオンラインで答える。学生は時間や場所に制約されずに受験でき、企業側には評価のばらつきを抑えられるメリットがあるという。

東京都は 5 月、生成 AI を活用した学習を都立学校で始めた。都のガイドラインは「新しい視点や発想をもたらす手段として使用する」としている。生徒が正答を求める使い方に偏れば、思考力が育たない弊害が指摘される。

政治のいとなみに用いる動きも始まっている。AI が SNS やネット上の「声」を収集、可視化し、意思決定に役立てるブロードリスニングは、先の参院選で複数の政党が公約作りなどに導入した。

利便に潜む落とし穴

生活や社会を便利にする新技術は、まだ途上だ。何より留意すべきは、学習と生成の過程がブラックボックスで検証が難しいことだ。AI は中立ではない。どんなデータを AI に学習させるか。どうアルゴリズム（計算手順）を組むか。決める者次第で導き出される「正解」が偏る可能性がある。また、もっともらしく誤った回答をするハルシネーション（幻覚）と呼ばれる現象は解消されていない。AI が人に代わって様々な作業をこなす技術が発展すれば、雇用のあり方も変わるだろう。

本物と見分けがつかない偽の画像や音声の量産も可能だ。SNS が世論形成に大きな影響力を持つ今、懸念されるのが、偽情報が投票行動に影響を与え、民主主義を脅かす事態だ。2023 年の中欧スロバキアの総選挙では、投票日直前に候補者の偽音声 SNS で出回った。国外の勢力による世論操作への警戒も必要だろう。中国のように AI を統制下に置く国がある。技術の進化で AI への人間の制御が利きにくくなるリスクも意識する必要がある。

A Iが学習するデータをつくった個人や団体をどう守るかも、課題だ。今春、A Iで写真をジブリアニメ風のイラストにした投稿がSNSにあふれた。誰もが一目でわかる絵のスタイルはスタジオジブリの財産のように映る。だが、作品のキャラクターに酷似したイラストでなければ著作権法違反には当たらない。

日本新聞協会は記事をA Iの学習に使う際は許諾を得るよう求めているが、無断利用する事業者がいる。深刻な被害が続くならば、時代に合った法整備は欠かせない。

規制をめぐる温度差

民主主義や法の支配を堅守しながら、A Iを活用するにはどうすべきか。その答えを出すべく世界で初めて包括的な法規制に乗り出したのが、欧州連合（EU）だ。リスクを高低に応じて4分類し、違反者に巨額の制裁金を科すA I法が昨年成立した。潜在意識に訴えたり、年齢や経済状況など弱みにつけこんだりする技術をEU規制は禁じる。個人の自由意思が操作されないようにして人権を守る手法は参考に値する。対照的に、巨大IT企業を抱える米国は、トランプ政権下で「規制」から「推進」に変化している。

日本で今年成立した法律は利活用を進める。政府は、規制法ではなく推進法との立場をとる。安全性の確保の面からは、犯罪への悪用行為や、バイアスのかかったデータを学習させて不適切な出力をする行為など重大な問題が起これば国が事業者を調査でき、事業者は調査に協力義務を負う。だが、協力しなくても罰則はなく、実効性には疑問がある。

「限界」理解し活用を

一人ひとりの市民がA Iの利点と限界を慎重に吟味して使いこなすことが肝心だ。

北海道東神楽町は昨年、町内の若者と生成A Iが「協力」して、2050年の町のあるべき姿を探った。「人口減・高齢化が深刻になる」「公共バスは不便」と若者側が提起。A Iと「対話」して、「バス停の居心地を良くして町民の交流スペースにする」との提言に練り上げた。

人間のアイデアを発展させる。未来の世代など意思決定の場にはいない人の意見を「代弁」してくれる。そんなA Iの強みは発揮された。一方で限界も。「言語化が難しい現場の雰囲気をつまえた回答がA Iは苦手」と、東神楽町の取り組みを企画したシンクタンク研究員の竹中勇貴さん。

「民主主義とは、自分と異なる意見と出会い、『考え直し』を経て、納得へと至る熟議のプロセス。手っ取り早く『正解』を見つけることではない」と、東京大学の谷口将紀教授（政治学）はいう。

リスクや限界を理解する。回答をうのみにせず、「異見」として議論に生かす。A Iとの「協業」は、人間主導を貫きたい。

（朝日新聞社説 2025 年 7 月 28 日朝刊より。一部改変）

[課題文 B]

以下の文章は、沖縄県八重山地方の島々における自然と人々の精神的なつながりの文化に関する一文である。よく読んで次の2問に答えよ。

(1) 下記の文章を 400 字程度で要約せよ。

(2) あなたの生まれ育った地域や、これまでに訪れた場所で、「自然」や「風景」が特別な意味をもっていた経験があるか。それを踏まえて、自然と人間の関係についてあなたの考えを 400 字程度で述べよ。

海を越え、御嶽に宿る一八重山¹⁾が守る聖なる絆

神々を迎え入れる聖なる場所として、沖縄に無数存在する御嶽²⁾(うたき)。村や集落を守護する御嶽、五穀豊穡を願う御嶽、水や山、太陽の神を祀る御嶽など、その役割は多岐にわたる。この神聖な御嶽を守るのが司(つかさ)(神司(かんつかさ)と呼ぶことも)。神と人をつなぐ神聖な存在として祭祀を執り行い、人々の願いを神に伝える役割を担う。女性のみが司となり、男性は御嶽の維持、管理を行うという伝統が今も守られている。

一般に開放されていない祭りも多い中、今回我々に撮影が許されたのが小浜島の「ニイガツタカピー」。島の7つの御嶽の司たちが「ユートウパーレ アンガリバーレ」と唱えながら、アキチャンと呼ばれる枝にユートウ(禍々(まがまが)しいもの)をからめ捕りながら、村を清め歩く神聖な御嶽神事だ。からめ捕られたユートウたちはその日の干支の方向の海へと流される。

八重山諸島の美しい海に囲まれた竹富島。島の南西部に広がる真っ白な砂浜と透明度の高い青い海が織りなす、コンドイ浜の風景は、まさに「理想郷」そのものである。この絶景を目にしてきた地元の人々は、単なる自然の美しさを超えた神聖なものを感じている。

古(いにしえ)より琉球³⁾の人々は、海の彼方に「ニライカナイ」と呼ばれる豊かな神の国があると信じてきた。そこから神々が島々を訪れ、豊穡や幸福をもたらしてきたとされている。この信仰は八重山地方に深く根付いている。それを裏付ける一つが、竹富島のコンドイ浜と西栈橋の間にある、「ニーラン石」と呼ばれる特別な岩。「ニーラン」は「神の国」を意味し、この岩はニライカナイから訪れる神々が船をくくりつける場所だったという。また、波照間島(はてるまじま)の最南端にあるペムチ浜は神々の上陸地点とされてきた。そのほか、八重山諸島にはニライカナイからやってきた神々の足跡が数多く残されている。これらの伝説は、島の人々の世界観や自然との共生の知恵を伝える遺産でもあり、海に囲まれた島々に暮らす人々は、外界との接点である海に恵みと畏怖の念を抱いてきたのだ。

ニライカナイから訪れる神々、神々を迎える御嶽、神事を執り行う司。この三者の関係が八重山の精神文化の核を成してきた。それと同時に、糧を運んでくる神々への祈り、神々の

宿る聖域の維持、人々の声を届ける司の存在が固く結びつくことで、島の信仰体系が脈々と受け継がれてきた。島の人々は、目には見えない神々との絆を大切に守り続けながら、その想いを次の世代へと受け継いでいくのだろう。

八重山諸島は滝や海、川、マングローブなどが織りなす、多様な自然に満ちた生命の宝庫でもある。島の人々は古来自然をおそれ敬い、共に生きる知恵を育んできた。滝壺には精霊が宿るとされ、自然の恵みをもたらす存在として崇められている。マングローブの森は海の生態系を支えると同時に、台風や高潮から島を守る防波堤の役割も果たす。また、森と海を結ぶ川は、海の彼方のニライカナイから神々が訪れる際の通り道とされ、豊かな生態系を育む命の流れでもある。八重山の人々は、こうした自然の中に神々の存在を感じ、ニライカナイからの恵みに感謝しながら暮らしてきた。現在も集落の祭祀では、神々を迎え、豊穰と幸福を祈る儀式が行われている。自然への祈りを通し、八重山の深い精神性は未来につながっていくのだ。

(山下マヌー「ニライカナイの伝説」, ANA 機内誌『翼の王国』2025年6月号特集より)

1) 八重山

沖縄県の南西部に連なる島々の総称（石垣島・竹富島・小浜島・新城島・黒島・西表島・鳩間島・波照間島・与那国島が含まれる）。

2) 御嶽

琉球・沖縄で神が宿るとされる、聖なる場所。

3) 琉球

現在の沖縄県に相当する、歴史的な王国名およびその文化圏のこと。1879年に日本に併合された。